

第20回ビジネス講座

自動運転の現状と今後の進展」

～バスの実証運行から見えてくる課題と展望～

概要

日時：令和2年2月6日（木）14:30～17:25

会場：横浜第2合同庁舎 関東運輸局 1階共用第1会議室

講師：《取組紹介》

関東運輸局 自動車技術安全部長 高井 誠治

《事例発表》

S Bドライブ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 佐治 友基 氏

相鉄バス株式会社 企画・安全部長 本岡 利之 氏

前橋市政策部 交通政策課 地域交通推進室 副主幹 南雲 貞人 氏

参加者：101名



【セミナー概要】

関東運輸局交通政策部では、2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・観光・物流・バリアフリー等、運輸局の業務に関係する題材をテーマに外部より講師を招いて公開講座を開催しています。

2020年度の7回目、通算20回目となる今回は、「自動運転の現状と今後の進展」～バスの実証運行から見えてくる課題と展望～と題し、まず関東運輸局自動車技術安全部 高井部長から国の取組等を紹介し、その後事例発表としてS Bドライブ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 佐治友基 氏、相鉄バス株式会社 企画・安全部長 本岡利之 氏、前橋市政策部 交通政策課 地域交通推進室 副主幹 南雲貞人 氏にご講演いただきました。

講演では、IT事業者、バス事業者、地方自治体それぞれの立場から「自動運転」について、実証運行の結果やそこから見えてきた課題、そして今後の見通し等をお話いただきました。共通したご意見として、実証運行時、乗車前には自動運転に不安を持っている方が多いそうですが、乗車後には不安が払拭されたという方も多く、受入れ気運の醸成に繋がっていると思われる、とのこと。また、自動運転には各方面から社会実装へ大きな期待が寄せられていますが、そのAI技術等を活用し、それぞれの立場に応じて、バスの運転手不足への対応だけでなく、運転手の負担軽減、安全性の向上、自家用車に過度に依存している住民の意識改革等を目指されているとのこと。

講演後は、交通政策部 松本次長が進行役となり、座談会形式で質疑応答を行いました。座談会ではどういった地域から「自動運転」が広がっていくと思うか、どのくらい時間がかかると思うか、車両だけでなくまちづくり（インフラ）の整備は必要か、実証実験の費用負担に関する考え方、5Gが利用できるようになった際のビジョン等、会場から寄せられた様々な質問に対して、丁寧に詳しくご回答いただきました。

今回のビジネス講座は、過去最高の参加人数となり、自動運転に対する関心の高さがうかがわれ、実証実験等を検討しているバス事業者や自治体にとって、非常に参考となる内容だったのではないかと思います。

【参加者感想】

- ・交通事業者や自治体など異なる立場から話を聞くことができ、参考になった。
- ・自動運転については様々な取組が行われているが、代表的な取組を現時点で網羅的に再確認することができた。
- ・未来に向けてとても進歩しているなど思った。まだまだ色々な課題が残っているのを改めて感じた。今後、高齢者が増えてくるので危険など察してくれるので高齢者に優しくして良いのかなと思う。
- ・今後のバス事業にあっては、いろいろな課題はあるが、自動運転システムが普及していくことによってバス会社の悩みも解決できるのかなと思う反面、資金面ではかなりハードルが高いのではないかなと思う。
- ・自動運転の実用化には、技術だけでなく法律やインフラ面での課題が多いことがわかった。

